

## 【避難誘導支援】

### 災害時におけるフリップボードの活用

小樽市総務部災害対策室

#### 1. 小樽市の概要

小樽市は、北海道西海岸のほぼ中央、後志地方の東側に位置し、札幌市など4市町村に接している。

東西約36キロメートル、南北約20キロメートルで、市街地の一方が日本海に面し、他の三方を山々に囲まれた坂の多いまちである。

海岸線は約69キロメートルで、その中央には天然の良港である小樽港があり、西側の勇壮な海岸は「ニセコ積丹小樽海岸国定公園」に指定されている。

気候は北海道にあって寒暖の差が小さく海洋性であるため、住みやすく、春は桜と新緑、夏はゴルフやマリンレジャー、秋は紅葉、冬はスキーと四季を通じて豊かな自然を満喫できる。

#### 2. フリップボード活用のきっかけ

小樽市は国際観光都市の一面もあり、平成27年度の観光入込客数は794万9,300人で宿泊客延数は82万3,700人、その内14万6,619人が外国人客で特に東南アジアからの入込が増加している。

この様な状況で、平成26年12月に市内の宿泊施設（延べ面積約4,000㎡）で火災が発生した。

幸いにも人的被害はなかったが、7か国36名の外国人宿泊客に対する避難誘導に「火事だ、逃げろ！」というたった一言の日本語が伝わらず消防隊が身振り手振りのジェスチャーで初めて理解してもらえたということがあった。

言語の違いから迅速かつ確かな誘導を行うことができなかったのである。

小樽市消防署では、このことを教訓に災害が発生した場合に外国人観光客への有効な避難を促すためにフリップボード



を作成して「見せる」発音して「聞かせる」方法で活用することにした。

作成には、市内の外国語講師に指導を仰ぎ、完成したフリップボードを外国人観光客が往来するイベント会場で通訳者の立会いの下、直接外国人に通用するか確認した。

### 3. フリップボードの詳細

表示言語は、英語、中国語、韓国語、ロシア語及びタイ語の5か国語でA4(210mm×297mm)サイズでノート型クリアファイルに封入し、平成27年3月1日から災害の第一線で出動する消防救助工作車や水槽付消防ポンプ自動車など11台の車両に各1冊を積載し、災害時に活用できるようにしている。

### 4. フリップボードの活用

フリップボードを配備以降、外国人観光客が多数避難する災害は発生していないが、火災予防運動などのPR訓練や宿泊施設の自衛消防訓練などでフリップボードを活用し、外国人の避難誘導體制の構築を図っている。

また、宿泊施設や観光物産施設の防火査察時には、管理者に対してフリップボードのPRを行い、徐々に普及している。



小樽市消防署で作成したフリップボードは、どなたでも御利用できるように小樽市消防本部のホームページからダウンロードできるので活用していただきたい。

小樽市:避難用フリップボードダウンロード で検索

<https://www.city.otaru.lg.jp/simin/anzen/shobo/shoboshokeibo/hurippubo-do.html>